

## 小林市・野尻町合併協定調印式市長あいさつ

平成21年1月21日午後2時30分～小林市文化会館小ホール

小林市、野尻町による合併協定調印式にあたり、主催者の一人として、また合併協議会会長といたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日ここに、小林市と野尻町の合併協定調印式を挙行いたしましたところ、皆様方にはご多忙の中、宮崎県知事・東<sup>ひがしこくばるひで</sup>国原英夫様をはじめ、地元選出の県議会議員の先生方のご臨席を賜りますとともに、合併協議会の委員、顧問の皆様、両市町の議会議員の皆様、そして関係各位の皆様方のご列席のもと、盛大に執り行うことができましたことを衷心より厚くお礼を申し上げます。

さて、小林市と野尻町の合併協議の経過につきましては、さきほど経過報告にもございましたが、昨年12月14日に第1回協議会を開催して以来、大変厳しい日程の中で合併に必要な項目に関する協議を精力的に重ね、43項目にわたるすべての協定項目の協議を終了し、本日の調印の運びとなったところであります。

ご列席の皆様のご立会いのもと、宮崎県知事・東<sup>ひがしこくばるひで</sup>国原英夫様に特別立会人としてご署名をいただき、めでたく合併協定の調印を終えることができました。本日ここに至るまでの道のりを振り返ります時に、誠に感無量の思いであります。

本日、歴史に残る合併協定調印式を迎えることができたのは、ご列席の合併協議会委員、県ご当局並びに議会議員の皆様をはじめ関係各位、そして住民の皆様方の並々ならぬご支援、ご協力の賜であり、衷心より敬意と感謝の意を表する次第であります。

今日の地方自治を取り巻く情勢は、少子高齢化や人口減少社会の到来、地方分権の進展、地方行財政に関する国の三位一体改革など、時代の大きな転換期ともいえる状況下において、多様化する住民の要請に的確に対応することが求められており、地域の将来をしっかりと見定め、行財政基盤の強化を図り、住民が主役の参画・協働のまちづくりを進めていくためには、市町村合併は避けて通れない行政課題であります。

いわゆる「平成の大合併」を国策として積極的に推進する中、西諸地域においても合併協議の中でいろいろ紆余曲折はございましたが、小林市と野尻町は少子高齢化対策や農林畜産業の振興など行政課題が共通しており、隣接するまち同士として生活圏を一にして、歴史、文化、産業、経済などを共に育んできたことから、地域特性を生かした豊

かな社会を築くため、合併することを決断し協議を進めてきたところであり、これから新しい市の誕生を目指して進んでいくことになるわけであります。

これまでお互いに独立した市、あるいは町として歩んできた自治体同士が、その歴史や伝統、地理的条件、地域特性など、様々な違いを乗り越えて合併するためには、関係各位の大変なご努力と、お互いの立場を認め合う協調と寛容の精神、そして、大きな決断が必要であったわけでございます。この大きな壁を乗り越えた野尻町と小林市の絆は、極めて強いものであると確信をしているところであります。

今後につきましては、1市1町それぞれの議会において廃置分合関連議案の議決をいただいた上で、来年3月23日の新市スタートに向けた準備作業を本格的に進めるとともに、新市誕生後は、いよいよ21世紀を展望した新しいまちづくり、歴史づくりが始まっていくわけであります。

特に、新市基本計画におきましては、新市の将来都市像を「霧島の麓に人・産業・歴史・自然が息吹き<sup>いぶき</sup> 元気あふれる交流都市」と構想するとともに、特性を活かした地域内分権型のまちづくりを進めるため、「地域自治区」の制度化を図りました。これまで同様にお互いの地域特性や立場を尊重し協力し合えば、必ずや地域住民の皆様が将来にわたって夢と希望に燃え、安心して暮らせる新市をつくっていくことができると固く信じておりますし、私自身、微力ながら、今後とも全力を傾注してまいり所存であります。

本日の1市1町による歴史的な合併調印は、合併協議の結実であります。また、「西諸はひとつ」という理念と、私どもに与えられた使命を考えます時、まだ最終目標に向けた一里塚と言うこともできるわけでございます。この合併を大きな礎として、西諸地域が未来に向かって飛躍していけるよう、更なる努力を続けてまいりたいと考えております。

結びに、本格化いたします新市づくりにおきましては万全の体制で準備を進め、皆様方のご期待にお応えしていく所存でありますので、今後ともそれぞれのお立場から、これまでに増してご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、合併協定調印にあたってのあいさつとさせていただきます。

平成20年1月21日

小林市長 堀 泰一郎